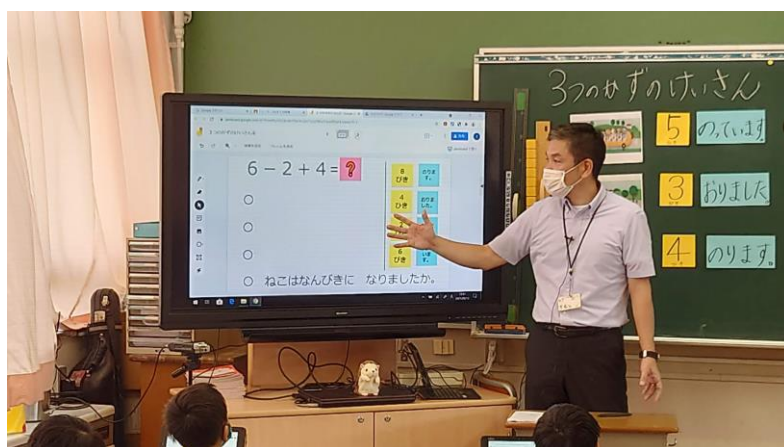
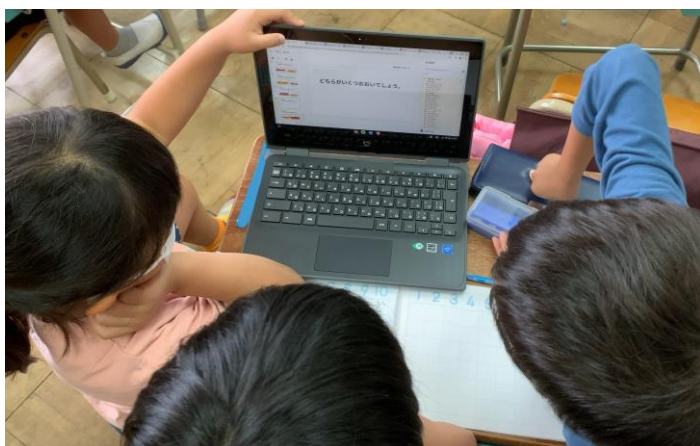


令和3年度

研 究 集 録

第14次研究主題

「新しい時代に生きる力を育む 視聴覚（情報・ICT）教育の追究」 ～個別最適な学びと協働的な学びの 充実に向けた授業デザインを通して～



東京都小学校視聴覚教育（情報教育・ICT教育）研究会 目 次

はじめに	1
1 研究の概要容	
(1) 研究主題（第1～4次）	2
(2) 主題設定の理由	
(3) 研究のねらいと内容	
(4) 研究構想図	4
(5) 研究組織	5
(6) 研究経過	
①第1回授業研究会	6
②第2回授業研究会	13
2 研究行事	
(1) 理事会	16
(2) 中止とした行事	16
(3) 夏期講座	17
(4) 特別研修会	20
(5) 今年度の研究日程	23
3 東京おもしろマップ	25
4 ジャンル別ひな形指導案計画	27
おわりに	28
令和3年度 都小視研 役員・事務局員・研究推進委員 一覧	29

はじめに

東京都小学校視聴覚教育（情報教育・ICT教育）研究会
会長 古谷尚律
（台東区立金竜小学校長）

本研究会ではこれまで実践的な研究を中心として、視聴覚機器の充実のあり方や授業での有効活用など、視聴覚教育の役割などについて研究を重ねてまいりました。

今年度は、研究主題(第14次)を、「新しい時代に生きる力を育む視聴覚教育(情報・ICT)教育の追究～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～」とし、研究を進めてきました。

しかし、一昨年度以来の新型コロナウイルスの感染拡大が止まず、研究活動も大きな影響をうけました。

毎年行われてきた夏期研修会や夏休み子供映画フェアも中止しました。

それでも研究を進めるために、毎月の月例会もビデオ会議アプリを利用して、会議を進めて来ました。授業研究会もオンラインでの参観や協議会、または、事後の録画を通して協議するという方法で行って来ました。

そのような状況の中ですが、第25回視聴覚教育総合全国大会・第72回放送教育全国大会の合同大会を「都大会と兼ねた大会」として位置づけ、その中で「実践発表」や「公開校の取り組み 授業研究協議会」の中で、本会の研究会での実践報告をさせていただきました。

例年同様の活動は今年度も出来ませんでした。1年間の活動の様子をまとめました。本来ならばこの研究集録は、都大会の場所にて参加した皆様に配布しておりましたが、このような形で配布させていただきました。各地区・各学校の教育実践に少しでもお役に立てることができたら幸いです。

また各地区の「GIGA スクール構想」の進捗状況は急速に進められ、児童1人1台の情報端末機器の活用についての課題も出始めている時期かと思えます。各地区の状況から課題解決に向けた情報交換の場ともなりたいと考えます。

今後も急速な情報機器・ICT機器の発達が予想されます。そのことにより、新たな教育課題や、各教科・学習場面での情報機器・ICT機器の有効活用についての期待も大きくなることと思われれます。

本研究会は、各地区の視聴覚教育（情報教育・ICT教育）の研究会や研究されている方々と連携をとりながら、新たな教育課題の解決に向け、新たな教育活動に向けた研究も推進してまいります。

是非、本研究会に対しての御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、今年度の研究を進めるにあたり、授業研究会で御指導をいただきました講師の先生方、研究活動に対して御協力いただきました関係諸機関の皆様方に心より御礼申し上げます。

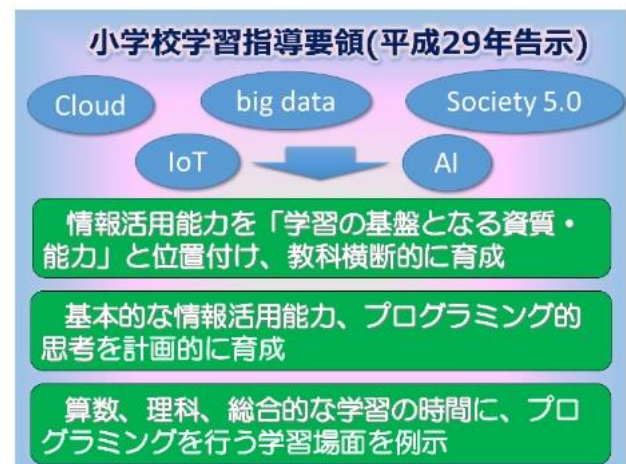
1 研究の概要

(1) 研究主題 (第 14 次)

「新しい時代に生きる力を育む視聴覚 (情報・ICT) 教育の追究」
～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～

(2) 主題設定の理由

小学校学習指導要領 (平成 28 年告示) は、今年度で全面実施 2 年目となり、急速に変化し先の予測が難しい時代において、学校はこれからの時代を生き抜く力を児童に育成するための教育活動をカリキュラム・マネジメントを通して着実に実施している。今回の改定において、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として言語能力、問題発見・問題解決能力等と同等に位置付けられた。また、情報活用能力は、情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報モラルの 3 つとされているが、総則では「情報活用能力 (情報モラルを含む)」と書かれている。このことは、情報モラルの育成が重要であることを示している。さらに小学校においてもプログラミング的思考を体験的に育成することが明記され、小学校教育が大きく変革する内容となっている。



そのような中で、新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、長期間にわたる臨時休業を余儀なくされたことなどから、国は

「GIGA スクール構想」を早急を実現する方針を示した。各自治体では、一人一台のタブレット端末を今年度中に配備することを目指している。そのため、ICT などの視聴覚的手法の活用による「学び」の転換が求められ、新たに「令和の日本型学校教育の構築に向けて」(令和 3 年 3 月) が示された。

本研究会では、これらのことを受け、新たに第 14 次研究主題を策定し、研究を進めることとした。

(3) 研究のねらいと内容

① 研究のねらい

第 13 次研究構想における研究のねらいは、「知識、技能の確実な習得を目指す工夫、課題解決能力を育む工夫、主体的に学ぶ態度を養う工夫、言語活動を充実させるための工夫」の 4 点であった。第 14 次研究構想においては、「学習指導要領」、「GIGA スクール構想」、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」の内容を加え、「授業デザイン」と「カリキュラム・マネジメント」の 2 つの柱に整理して、以下のように設定した。

○ 望まれる子供像に向けて、各教科等の特性を踏まえ、ICT 等を活用した授業デザイン

を工夫する。

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための授業デザイン
- ・ 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための授業デザイン

ン

- ・ 主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン
- ・ 言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育むための授業デザイン
- ・ 体験を通して、プログラミング的思考を培うための授業デザイン
- ・ 豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むための授業デザイン

デザイン

- 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、カリキュラム・マネジメントを工夫する。

② 研究の内容

上記のねらいを達成するために、本研究会では学習指導要領で言及されている ICT などの視聴覚的手法を活用した授業デザインを工夫し、カリキュラム・マネジメントについても視野に入れながら、実践的に検証し、研究を進めることとした。

特に、「GIGA スクール構想」においては、一人一台タブレット端末を活用することで、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」という 3 つの学習形態において、学びの深化、学びの転換を行うことができるとされている。この学習形態と授業展開の過程をマトリクスにした「ICT 活用モデル」を構築し、ICT などの視聴覚的手法をいつ、どのように使ってねらいを達成することができるかという視点で授業をデザインし、実践を通して検証する。

一人一台のタブレット端末の配備により、児童は学校の授業だけでなく、家庭学習や感染症・不登校対策などで登校できない場合においても活用できる。そのため、校内における ICT 活用に加えて、校外での活用も加え、「ICT 活用モデル」を再構築した。

また、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」に示された、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、従来の学校教育に ICT などの視聴覚的手法を掛け合わせることで、効果的に実現できると考え、その実現を目指した授業デザインを工夫する。

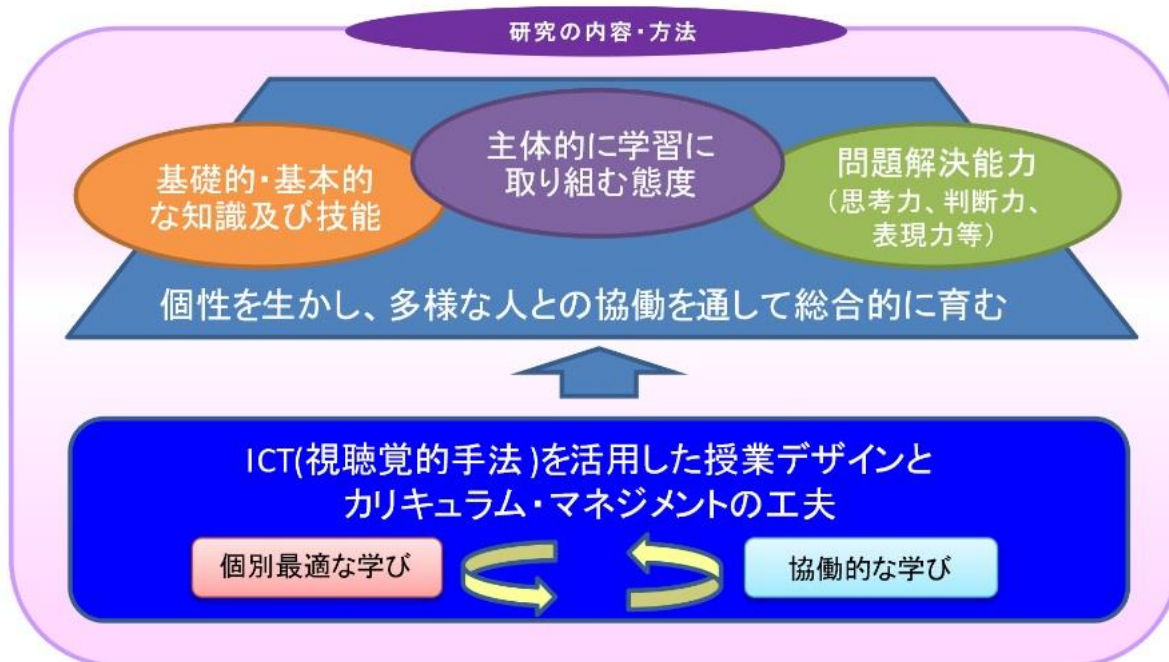
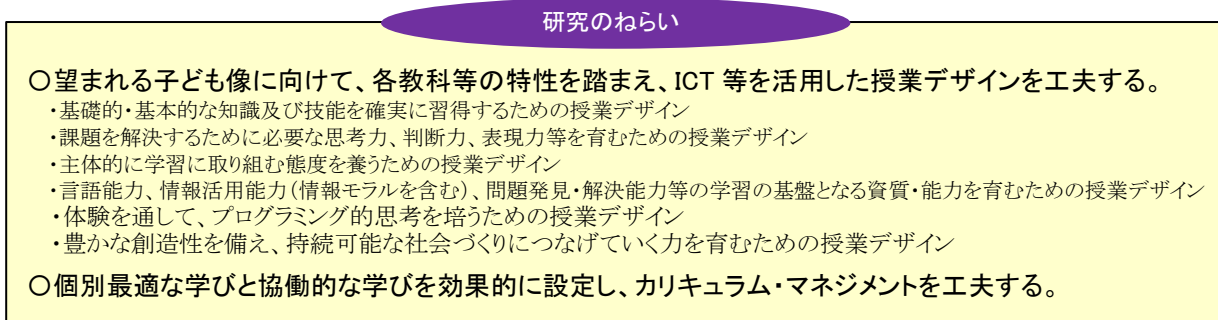
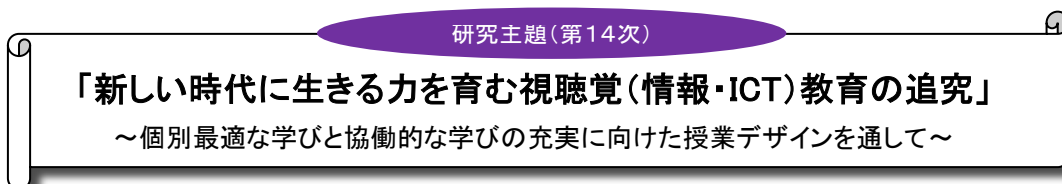
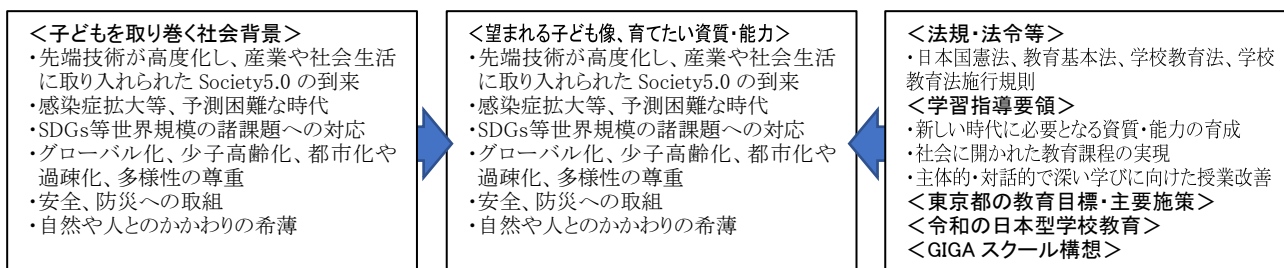
ICT などの視聴覚的手法の活用は、ハード面などの学習環境の整備や ICT 支援員、民間企業や地域等との連携など、カリキュラム・マネジメントの充実が求められる。特にプログラミング的思考の育成を図るためのプログラミング学習において、様々な教材の活用や発達段階に応じた系統的な指導をカリキュラム・マネジメントを通して実践していく。

本研究会では、第 13 次研究構想から「情報モラル」の育成について研究を進めてきた。今回、総則の解説に明記されているように、全ての教育活動を通して児童に情報モラルを確実に身に付けさせるための方策について、継続して研究を深めていく。

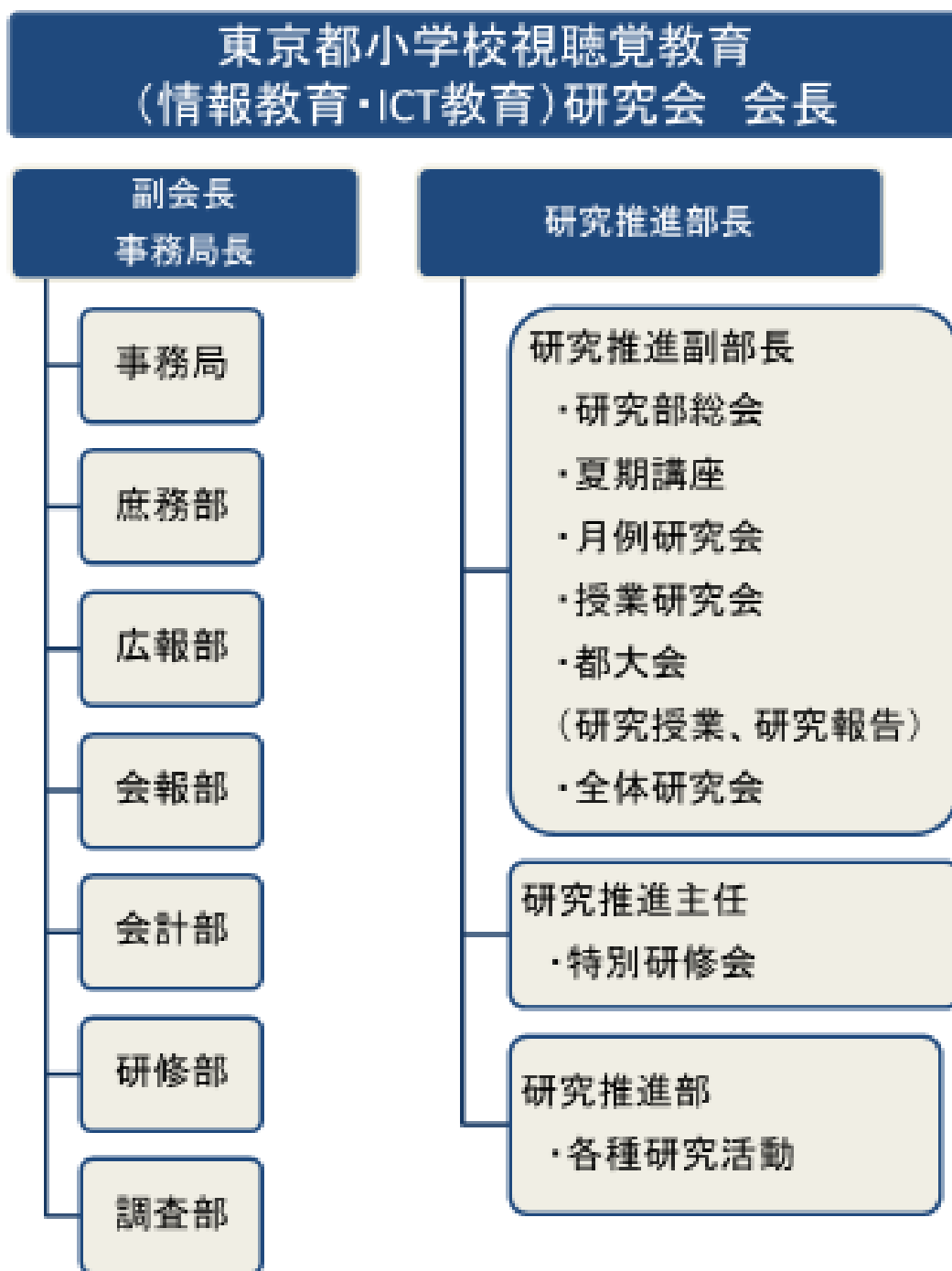
授業デザイン「ICT活用モデル」			
①単元・本時のねらい	③学習過程等の選択	⑤ICTの効果の検証	
②教師の意図	④学習形態の選択		
	一斉学習 (クラスのみなどで)	個別学習 (1人で)	協働学習 (力を合わせて)
学習過程 アクティブ・ラーニングの視点 からの問題解決的な学習の流れ			
導入	①問題・課題把握 ②予想・見通し	1 導入・一斉	2 導入・個別
展開	①自力解決・実験等 ②発表・検討	4 展開・一斉	5 展開・個別
終末	①まとめ ②適用・習熟	7 終末・一斉	8 終末・個別
校外	ハイブリッド・家庭学習	10 校外・一斉	11 校外・個別
			9 終末・協働 12 校外・協働

(4) 研究構想図

昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、新たな内容を加えて再構築した。



(5) 研究組織



(6) 研究経過

①第1回授業研究会

第1学年 算数科学習指導案

令和3年7月1日(木)5校時 13:40~14:25

八王子市立高倉小学校 松本雄企

授業会場 1年教室

1 単元名

「ひきざん(1)」

2 単元の目標

ひき算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)−(1位数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

3 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	A	○ひき算の意味(求残、求差、求部分)を理解し、(10以下の数)−1桁の計算が確実にできる。	○数図ブロックの操作と結びつけて求差、求残の意味を考え、説明している。	○ひき算を用いる場面に関心を持ち、進んで式に表そうとしている。
	B	○ひき算の意味(求残、求差、求部分)を理解し、(10以下の数)−1桁の計算ができる。	○数図ブロックの操作を結びつけて求差、求残の意味を考えている。	○ひき算を用いる場面に関心を持ち、式に表そうとしている。

4 単元について

減法についての初めての学習となる。減法が用いられる具体的な場面を数図ブロックの操作を通して、ひき算の記号を用いた式に表す。また、式から具体的な場面を読み取ったり、式の読み取りを、図や具体物を用いて表したりすることを重視する。なお、本単元では、数図ブロックを用いた算数的活動を多く取り入れ、ひき算の意味を理解したり、ひき算の式になるわけを言ったりさせて減法についての理解を深めていく。最終的には、式の答え(計算の答え)は念頭で求められるようにする。すなわち、計算の答えは数図ブロックを用いなくてもできるように促す。そのためにも、「いくつといくつ」の学習が重要である。

5 指導観

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領、第1学年の2内容A「数と計算」(2)に示された指導事項の

うち、(10以下の数) - (1位数)の減法に関する指導のために設置されたものである。

主な指導事項として、

内容A「数と計算」

A(2) 加法、減法

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

(2) 児童観

(省略)

(3) 教材観

算数の学習では、「数と計算」の領域に入り、学習内容の定着度に少しずつ差が見られるようになってきた。本来であれば、一人ずつ丁寧に声を掛け、定着度を確かめたいところであるが、一人一人が抱える課題は多様であり、全員にゆっくり丁寧に指導することは難しい。これまでの授業でも、教科書やノートをプロジェクタで投影し、担任の説明と合わせて視覚的にも理解が深まるようにしてきたが、一人一台学習用端末が配布されたことで、新しい学習の形が作れるようになった。

そこで、前単元「たしざん(1)」から、

グーグルスライド…教師からの問題提示、児童が作成した問題の集約

グーグルフォーム…振り返りを入力

を行っている。前単元から、グーグルスライドをクラスで共有することで、各自が作った文章題を一つのファイルに同時に書き込みができるようにしている。同時に編集し、閲覧できることで協働的な学びができるようにした。児童はクロームブックを日常的に使っているため、すすんで学習に取り組めると考えた。

6 指導計画

(1) 本単元に入るまで

①学校全体でオンライン授業を行う。(4月)

Meetの使い方を指導する。

②描画作成アプリ「キャンバス」で絵を描かせる。

自由に書かせて慣れさせる時間と、課題設定した絵を描かせる時間を設定。

③前単元で Google スライド、フォームを使う。

教師から問題提示、児童作成の問題を集約

振り返りを入力

Google スライドを共有し、各自が作った文章題を一つのファイルに同時に書き込みができるようにした。

また、同時に編集、閲覧することで協働的な学びができるようにした。

(2) 本単元の指導計画


- ・全時間、[Google フォーム] で振り返りをする。
- ・教科書に掲載されている数値を用い、児童が描いた絵を使った課題設定にした。

時	学習活動	○留意点 ☆活用する ICT 機器・アプリ ・学習活動に即した具体的な評価規準など
1	○児童が描いたりんごの絵を見て、「5 個から 2 個取ると残りは何個になったか」という場面を理解し、数図ブロックを用いて答えを導く。	○5つの数図ブロックの右から2つを右側に取り去るよう に操作させ、3になることに気付かせる。 ☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム ・具体的な操作を通して、求残の場面を理解している。 《観察》【知識・技能】
2	○りんご 8 個から 3 個を食べる場面で、数図ブロックの操作をもとに、ひき算の式に表す。	○りんごを数図ブロックに置き換えて、前時と同じよう に右に取り去るよう操作させる。 ☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム ・求残の場面をひき算の式に表し、答えを求めることが できる。《観察・ノート》【知識・技能】
3	○葉のついているりんごとついていないりんごの絵を見て、その場面 を理解する。 ○残りの数を求めるときと同じ操作 を数図ブロックで行い、ひき算の 式に表す。	○数図ブロックの操作から、求部分の意味を理解操作で 求められることを確認する。 ☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム ・具体的な操作を通してさせるとともに、求残と同じ求 部分の場面についてもひき算の式に表そうとしている。 《観察・発言》【思考・判断・表現】
4 ・ 5	○ひき算のカードを使って繰り返し ひき算の練習を行う。 ○教科書の巻末にある「かあどげえ む」を行う。	○答えが1になるカードが多いことへの気付きから、同 じ答えになるカードに分ける活動へ入るようにする。 ☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム ・(十、1 桁) - (1 桁) のひき算を確実に身に付けよう としている。《観察》【主体的に学習に取り組む態度】
6	○りんご 5 個とみかん 3 個のちがいを 求める」という場面を理解し、残	○2 種類の数図ブロックにそれぞれ置き換えて対応さ せ、求残と同じ右側に取り去る操作であることに気付

	りの数を求めるときと同じ操作を数図ブロックで行い、答えを導く。	<p>かせる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム</p> <p>・具体的な操作を通して、求差の場面を理解している。</p> <p>《観察》【知識・技能】</p>
7	<p>○りんご 6 個とみかん 2 個ではりんごの方が何個多いかを、数図ブロックの操作をもとに、ひき算の式に表す。</p> <p>○どれだけ多いかを求める場面で、ひき算の式にかいて答えを求める練習をする。</p>	<p>○りんごとみかんの数の違いに注目したところで、それぞれの数の数図ブロックに置き換え、前時と同じ操作をさせる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム</p> <p>・求差の場面をひき算の式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》【知識・技能】</p>
8	<p>○絵を使って文章題を作る。</p> <p>○作った問題を解き合う。</p>	<p>○ひき算の式がかけない児童には、数図ブロックを操作させる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、ゲージスライド・フォーム</p> <p>・問題をよんで求残や求差の場面であることを正しくとらえて、ひき算の式に表している。《発言・ノート》【思考・判断・表現】</p>
9	<p>○りんご 6 個とみかん 4 個の数の違いを念頭で考える。</p> <p>○「ちがい」を求める場面で、ひき算の式にかいて答えを求める練習をする。</p>	<p>○2 種類の数図ブロックを左端に揃えて並べた図を提示し、「ちがい」の部分に気付かせる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、フォーム</p> <p>・数の多少に着目して、「ちがい」を求める式を考えている。《発言・ノート》【思判表】</p>
10	<p>○児童が描いた絵を使って、「どちらがいくつおおい」の場面を理解し、問題を作って解きあう。</p>	<p>○最初に数図ブロックを操作させて問題場面を理解させる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、ゲージスライド・フォーム</p> <p>・問題をよんで求残や求差の場面であることを正しくとらえて、ひき算の式に表している。《発言・ノート》【思考・判断・表現】</p>
11	<p>○$3+4=7$ になるお話づくりをする。</p> <p>○$7-3=4$ になるお話づくりをする。</p> <p>○たし算やひき算を表す絵本を作る。</p>	<p>○お話づくりの題材となる式と名数を板書して選ばせる。</p> <p>☆ (T) 教師用タブレット、プロジェクタ (C) クロームブック、ゲージスライド・フォーム</p> <p>・式からどんな場面ができるかを正しく判断している。《発言・観察》【思考・判断・表現】</p>

8 本時案 (10/11)

目標 ひき算の式を具体的な場面に表すことで、式について理解を深める。

		学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
5分	導入	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の課題(絵)を提示し、めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>(り ん ご)</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どちらがいくつおいしいのもんだいをつくって、とこう</p> </div>	<p>○掲示物を見て、今までの学習を振り返らせる。</p> <p>○課題の絵を提示し、どんな問題が作れるか考えさせる。</p> <p>○絵は別の時間を使って児童に作成させたものを使用する。(キャンバス使用)</p> <p>○提示は教師用スライドで行う。</p>
7分		<p>3 提示した絵からどんな式になるか考える。</p> <p>図、式、答えをノートに書く。</p> <p>図 ●●●●●●●●</p> <p>○○○○</p> <p>式 $7-4=3$ 答え りんごが3こおい</p>	<p>○ノートを開かせ、めあて、図→式→答えの順で書かせる。</p> <p>○全員で式を確かめる。</p> <p>○答えの書き方を指導する。</p>
8分	展開	<p>4 問題になる絵を選び、スライドに挿入する。</p> <p>クロームブックを開き、クラスルームに入る。</p> <p>課題からスライドを開く。</p> <p>ドライブから絵を選び、挿入する。</p>	<p>○配信した課題からスライドを開かせる。</p> <p>○取り組ませる前に画像挿入の仕方を確認する。</p> <p>○ドライブの中にある絵を選ばせる。</p> <p>○「どちらがどれだけ多い」の問題を作成するので、異なる2量を選ばせる。</p> <p>○1~9個の絵をそれぞれ1つの画像ファイルにしておく。</p> <p>○画像挿入後のサイズ調整は担任が行う。</p> <p>○挿入したら友達の問題を解くよう促す。</p> <p>○必要な児童にはブロックを使わせる。</p>
15分		<p>5 ひき算の問題を解き合う。</p> <p>スライドを見ながらノートに友達の名前(出題者)、式、答えを書く。</p>	<p>○スライドに挿入した絵からひき算の問題を想像させ、友達の問題を解く。</p> <p>○書き方、解き方のヒント(スライド)を用意し、必要な児童には見るように促す。</p> <p>☆絵を見て求差の場面であることを正しくとらえて、ひき算の式に表している。(ノート・発言・観察)【思考・判断・表現】</p>
10分	まとめ	<p>6. 振り返りをする。</p> <p>どんな問題だったか、児童のスライドを見て問題を考える。</p> <p>フォームに学習感想を入力する。</p>	<p>○本時のねらいに迫れたか確認し、選択式の自己評価をさせる。</p>

■考察（○成果・●課題）

○児童が描いた絵を教材にしたことによる意欲の高まりが見られた。

○「どちらがどれだけ」（使用教科書に本来はない）をあえて入れたことについては、よかった。

○学習内容を理解し、問題作りに取り組むことができた。ただ、8-8を作っている子もいた。

○皆が主体的に取り組んでいた。クロームブックの使い方に慣れていく必要あり。

○一人一台の学習用端末の使い方は効果的であった。指導者が慣れて覚えることが必要な面もある。

●今後に向けて、担任も児童も操作に慣れること

●授業後半に時間をとり、失敗もたっぷり体験させるとよい。

●「導入を丁寧にしないと…」と思ったので、丁寧にしたが、時間がかかってしまった。

●児童がスライドに入れた画像を調整することに夢中になりすぎたため、一人一人の活動を見取ることができなかった。

■指導講評より（講師：東京学芸大学 加藤直樹先生）

・振り返りがよかった。

・導入が丁寧だったので、「りんごが○つ多い」と書けていた。

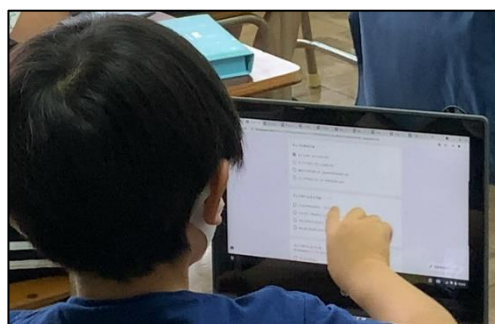
・グーグルワークスペースの共有をうまく使っていた。協働的な学びもできていた。

・複数人一台の形も取れる。システムによってはグループに一台のときがよいときもある。

・主体的な学び、協働的な学びが進んでいくと、教師はコーディネーター的に提示、修正、まとめをすればいい。

・画像を貼り付けるときは正方形か縦長にしておくとうい。

・一枚のスライドをコピー配布し、個人の管理にする。共有用ファイルを作り、リンクで貼るとよい。



〔別紙〕

1年生

全体の目標：使い方を覚え、楽しんで学習に生かそうとする態度を育成する。

		1学期	2学期	3学期	ゴール	その他	
スキル	クロームブック	ID・パスワード入力	○			一人ができる。	簡単なトラブル対応ができる。 音量調整、再接続)
		タップ等操作	○			操作を覚える。	
		手書き入力	○			手書き入力ができる。	
		かな入力		○		ひらがなのみで入力できる。	
		カメラ	○			撮りたいものを撮れる。	
	クラスルーム	ストリーム		○		短文で投稿できる。	マナーを守って使うことができる。
		課題	○			課題を受け取れる。	
		ミーティング	○			学校外でもつながることができる。	
		ジャムボード		○		自分の考えを付箋に書ける。	
		スライド	○			開いて見ることができる。	
モラル	SNS 東京ノート	○	○	○		生活に生かすことができる。	
	教科書		○				
	その他	デジタルシティシップ	文科省YouTube				
プログラミング		アンブラグド (朝の支度)	アンブラグド (避難訓練) ビスケット (絵を動かす)	ビスケット (スイミー)	朝の支度…自分の生活を振り返り、よりよくする。 避難訓練…地震が起きたときの避難のしかたを考える。 ビスケット…簡単な絵を描き、思い通りに動かす。	楽しむことができる。	

活用ステップ

	Meet	ペン入力	カメラ	Forum	Classroom	Slide	Jamboard	Document	Spreadsheet	Canvas
1	参加、退出	やり方	シールドに固定	回答の仕方	参加	保存	保存	保存	保存	保存
2	ビデオ・マイク	キャンバスで音声を切る	使い方・約束	練習	Meet	テキストボックス	付箋	キーボード入力	文字入力	ペン
3	画面レイアウト	スライドで移動・文字	撮っている	タップで答える	ストリームコメント	写真挿入	テキストボックス	手書き入力	共有	色を変える
4	オンライン授業	ジャムボードで付箋	保存場所	ペン入力で答える	課題受け取る	スライドショー	図形挿入	音声入力		
5	挙手・オンオフ		スライドに挿入	かな入力で答える	課題提出	スライドの色	図のコピー	画像挿入		
6	画面共有		トリミング		資料見る	アニメーション	フレームコピー	共有		
7	複数個所でつなぐ		拡大・縮小		質問に答える	共有	共有	文字色		
8			コピー			スピーカーノート	ペン	文字の大きさ		
9			録音コード読み取り			リンク	フレームの複製	版を戻す		
10						版を戻す				
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										

②第2回授業研究会

令和3年度

第1学年 算数科 「3つのかずのけいさん」

荒川区立尾久宮前小学校 井口輝人

荒川区の特別支援教育部での実践を、本研究会でも研修の題材として取り上げた事例である。

本学級は、多様な個性が集まり明るい雰囲気をもつ。配慮を要する児童も、みんなで支え合い、お互いの成長を認め、喜びあえるクラスを目指している。言語理解に課題のある児童が多く、全体として言語の理解の向上が課題である。今後も、算数の文章問題に苦勞することが予想されるため、文章題にも苦手意識をもたず、取り組めるように日常的に支援をしている。

■ICT環境を生かした指導配慮

荒川区では、GIGAスクール構想の推進によりタブレット端末の一人1台環境も完全に整い、現1年生は入学時からタブレット端末を使えるという恵まれた環境が与えられている。子供たちは、日常的にタブレット端末を使うことで、慣れ親しんでいる。教科指導においても、指導のねらいに即したタブレット端末の活用、支援のツールとしての活用を行っている。本単元では、学習指導書「つまずきと発達障害」をヒントに授業を構成した。
※個別最適化のため「Google for Education」の諸機能（以下のアプリ）を活用

- ・ Google Classroom…
オンライン学習管理アプリ
教材・課題の配布・管理
- ・ Google Slide…
プレゼンテーションアプリ
場面の順次提示
- ・ Google Jamboard…
ホワイトボードアプリ
思考ツール
- ・ Google Form…
アンケート&テストアプリ
ふりかえり

※教材・課題の配布・管理を Google Classroom で行う。

※教科書のさし絵を分割してスライドに張り、各自のペースで思考できるようにする。

※問題づくりにおいて、Jamboard 使うことで、予めキーワードを書いておいた付箋をタッチ操作するだけで作問できるようにした。手書きもできるので、レベルに応じた内容にすることができ、効果的な指導・支援を行い、一人一人の変容を目指している。

※Jamboard の一覧表示機能を使うことで、児童の進捗を確認、発表時の拡大提示を行う。また、学習意欲の向上にもつながると考えている。

■授業の概要

(1)単元の目標

3つの数の加減計算の仕方を理解し、3つの数の加減計算の仕方を操作や式を用いて考える力を養うとともに、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

(2)単元の指導計画（・学習活動）

- ① 3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。
 - ・スライドの絵を見て、式を考える。
 - ・3つの数の加法の場面を1つの式に表す。
 - ・2つの数の加法計算を基にして、3つの数の加法計算の仕方を考え、計算する。
 - ・場面を1つの式に表すよさを確認する。
- ② 3つの数の減法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。
 - ・スライドの絵を見て、式を考える
 - ・3つの数の減法の場面を1つの式に表す。
 - ・2つの数の減法計算を基にして、3つの数の減法計算の仕方を考え、計算する。
 - ・減法の式も、3つの数の計算を1つの式に表せることを確認する。
- ③ 3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え、説明することができる。
 - ・スライドの絵を見て式を考え、解決する。
 - ・3つの数の加減混合計算の場面を1つの式に表す。
 - ・3つの数の加減混合計算の仕方を考え、計算する。
- ④ 3つの数の加減混合を用いた問題づくりを行うことができる。
 - ・3つの数の加減混合計算を用いた問題づくりを行う。
 - ・作った問題を発表する。

(3)本時の指導（4 / 4 時）

<目標>

- 3つの数の加減混合を用いた問題づくりを行うことができる。

<展開>（・留意点 ◇支援の手だて）

- ① 前時の学習を振り返る。
 - ・前時のスライド（紙）を黒板に掲示し、振り返りをする。

◇学習の見通しをもたせる。

- ② めあてを確認する。
 - ・児童が答えた立式、問いの文を大きく板書する。

- ③ 問題を把握する。
 - ・操作手順をデモンストレーションし確認する。

◇タブレット端末の操作補助

- ◇問題づくりの基となる式として前時の適用問題を活用する。
- ◇正解を次のスライドに用意しておき、ヒントカードとする。
- ◇Jamboard上の文字付箋を活用しやすいように声掛けをする。

- ④ 問題づくりをする。（個人）

◇一覧表示で進捗状況を確認して支援する。

- ⑤ 作った問題を確認する。（ペア）

- ・修正をする。
- ・発表の練習をする。
- ・ペアでアドバイスをさせる。

◇ペア活動が成立するよう支援し、全体での発表を促す。

⑥作った問題を発表する。(全体)

- ・児童の Jamboard を全体に提示することで発表の意欲を高める。

◇前時の適用問題を課題とすることで、前時のノートから答えの数は、分かるようにしておく。

⑦Form に学習感想を入力する。

- ・選択式の自己評価、ペア評価、全体評価を行う。

5 - 3 + 4 =

3 ひき	おりました。
4 ひき	のります。
5 ひき	おりました。
6 ひき	のっています。

ねこは なんびきになりましたか。



5 - 3 + 4 = 6

<input type="radio"/> 5 ひき	のっています。	
<input type="radio"/> 3 ひき	おりました。	おりました。
<input type="radio"/> 4 ひき	のります。	6 ひき

ねこは なんびきになりましたか。

問題づくりに活用した Google Jamboard

■成果と課題

- あらかじめ用意した付箋を動かすだけで簡単に問題づくりができる Jamboard の操作性が、1年生にも有効であることが分かった。支援を要する児童への手だてとしても大変有効だった。
- 式の計算結果だけを示すことによって、1つだけの答えを求めさせるのではなく、様々な式を考えさせることができる。
- 本時の目標に「やること」しかない、手段だけで何が学べたか分からない。作業によって何が分かるかが大事である。(⇒ 問題を作ることで3つの式の計算を理解することができる。)

2 研究行事

(1) 理事会… 令和3年10月7日(金) 会場：台東区立金竜小学校

今年度の第1回理事会は、引き続き新型コロナウイルスの影響により、今年度も集合開催を断念せざるを得なかった。各理事の安全を第一に考え、書面による開催とした。事前に理事会資料を各理事に送り、内容を検討していただいた。そのうえで、承認いただける理事には、承認手続きとして、承認票を事務局宛に送っていただくこととした。

理事会当日は、会場を会長校とし、古谷会長をはじめ役員が待機し、電話による問い合わせ等に対応できる体制をとった。

書面による開催以外にオンライン開催等も検討したが、各自治体で使用できるオンラインアプリに違いや制約があることから、同じプラットフォームでの開催を断念した。

第2回理事会も、書面による開催とする予定である。

(2) 中止とした行事…

①第21回「夏休み子ども映画フェア」

例年、夏期講座と同日の午前中に「夏休み子ども映画フェア」を実施しており、今年度も文京シビックホールで開催予定であったが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2年続けての中止とした。毎年多くの親子が楽しみにしてくれているイベントであるため、入場者数を減らすなどの方法も検討したが、安全第一の理由から中止とせざるを得なかった。

今の時代、映画は家庭でもテレビ等で容易に鑑賞することができるが、暗い会場で大型スクリーンに映し出される良質の映画は、テレビでは得られない集中や面白さ、感動があると、当研究会では捉えている。次の機会にはぜひ開催を実現したいと考えている。

②箱根特別宿泊研修会

例年12月に宿泊研修会として顧問・参事もお誘いし、時間をかけてじっくりと学び合う機会であるが、今年度もコロナ禍のリスクを想定し、昨年引き続き半日のオンラインによる特別研修会として開催した。

新学習指導要領が示されてから、本研究会の研究主題の見直しを続けてきたが、GIGAスクール構想の前倒しによる一人1台端末の環境が実現したこともあって、あらためて本研究会の目指すべき方向を確認し、具体化することができた。(詳しくは、後述の特別研修会記録をご参照ください。)

(3) 夏期講座 令和3年度 都小視研 夏期研修会

令和3年8月20日(金) オンラインによる研修

■ はじめに

昨年度より、小学校学習指導要領(平成28年告示)が全面実施となったことを受け、本研究会では、新たに第14次研究構想を構築し、新たな研究主題を設定して研究を進めている。特に、「情報活用能力(情報モラルを含む)」が学習の基盤となる資質・能力として言語能力、問題発見・問題解決能力等と同等に位置付けられたこと、小学校においてもプログラミング的思考を体験的に育成することが明記されたことから、研究の構想図も大きく見直した。そのため、文部科学省より示された「学習指導要領」、「GIGAスクール構想」、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」についての内容を理解し、これからの時代を生き抜く児童の育成に向けて、ICTなどの視聴覚的手法の活用による学びの質の向上を目指すことをテーマに、夏期講座の研修を行った。

■ 研修の概要

1 開会

(1) 会長挨拶 (2) 本日の研修について

2 研究構想図について

4 実践報告 「豊島区のGIGAスクール構想の取組」

3 実技研修 「ハイブリッド型授業研究会の実現」

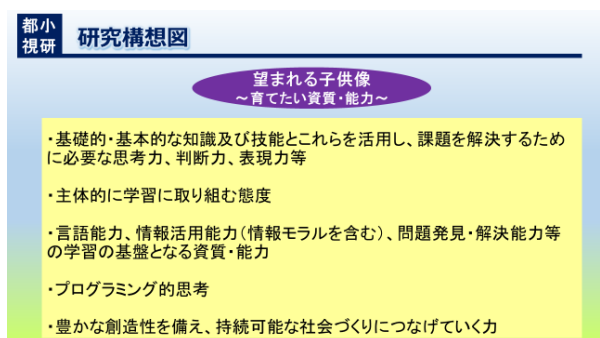
4 閉会

■ 研究構想図について(研究推進部長 原 香織)

新たな「学習指導要領」や「GIGAスクール構想」、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」を踏まえ、本研究会として望まれる子供像(育てたい資質・能力)を5つ設定した。

また、第14次研究主題を「新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究」とし、副主題を「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業デザインを通して」と設定した。

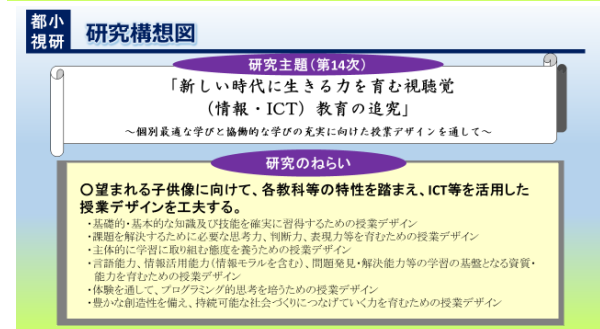
そして、望まれる子供像の実現に向けて、各教科等の特性を踏まえ、ICTなどの視聴覚的手法を活用した授業デザインを工夫し、実践を通して検証することを確認した。



都小視研 研究構想図

望まれる子供像
～育てたい資質・能力～

- ・基礎的・基本的な知識及び技能とこれらを活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等
- ・主体的に学習に取り組む態度
- ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力
- ・プログラミング的思考
- ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力



都小視研 研究構想図

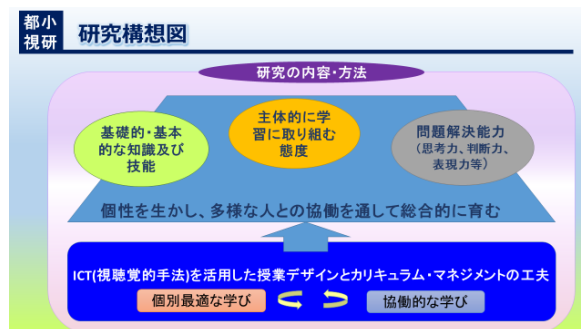
研究主題(第14次)
「新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究」
～個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業デザインを通して～

研究のねらい

○望まれる子供像に向けて、各教科等の特性を踏まえ、ICT等を活用した授業デザインを工夫する。

- ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための授業デザイン
- ・課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための授業デザイン
- ・主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン
- ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育むための授業デザイン
- ・体験を通して、プログラミング的思考を培うための授業デザイン
- ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むための授業デザイン

本研究会では、「基礎的・基本的な知識及び技能」、「主体的に学習に取り組む態度」、「問題解決能力（思考力、判断力、表現力等）」について、個性を生かし、多様な人との協働を通して総合的に育むこととし、その方法として「ICTを活用した授業デザイン」と「カリキュラム・マネジメント」を工夫することとした。その際、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」に示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」をICTなどの視聴覚的手法を活用することにより、より効果的に実現する方法についても研究していくことを確認した。



■ 実践事例 「豊島区のGIGAスクール構想の取組」（研究推進部長 原 香織）

豊島区では、令和2年5月に全小・中学校の児童・生徒にアカウントが配布され、いち早くオンライン学習をスタートした。また、9月には一人一台のタブレット端末が貸与され、ICTを活用した授業デザインに先進的に取り組んできた。

導入時、全校でICT教育推進担当教員とICT支援員（外部委託）のティーム・ティーチングによる、共通のオリエンテーションを行ったことで、全教職員が同じスタートラインに立って指導を行うことができた。その際、タブレットの活用のルールとして情報モラルを最初に徹底して指導することが大切であることも分かった。

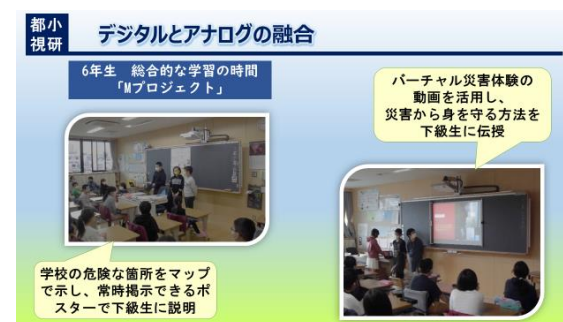
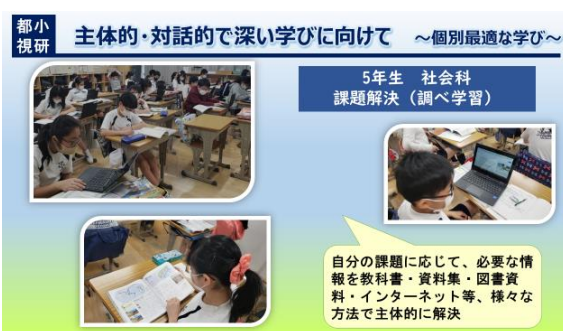
一人一台のタブレット端末導入後、わずか1か月あまりで、全学年でタブレットを活用した個別学習や協働学習が日常的に行われるようになった。教師が授業をデザインする際には、デジタルかアナログかの二項対立ではなく、それぞれのメリットを理解し、必要に応じて活用することが大切である。

そして最終的には、児童も自らの学習に必要な学習ツールとして、デジタルかアナログかを選択したり、時には両者を融合させたりして、主体的・対話的で深い学びを実現することを目指していく。

■ 実技研修 「ハイブリッド型授業研究会の実現」（研究推進部 小川 琢也）

昨今の社会情勢の変化とGIGAスクール構想の実現に伴い、同時双方向型のウェブ会議システムを活用した「ハイブリッド型授業研究会」が実現した。

ハイブリッドとは“組み合わせる”の意である。「ハイブリッド型授業研究会」は授業を



行う教室の様子を動画で撮影してリアルタイムに配信し、実際の教室の参観者とオンライン参観者の双方をつないで行う授業研究会のことである。今年度は令和3年7月1日(木)の第1回授業研究会、9月13日(月)の第2回授業研究会を本形式で行った。

ハイブリッド型の利点は、校内に留まらず、地域の枠を越え、双方向がつながることができることにある。インターネットに接続できる環境さえあれば会議を開くことができる手軽さが特徴である一方で課題もある。それは ①広角の定点カメラで撮影した映像では文字が見えづらい、②授業者や児童の音声不明瞭で聞き取りづらい、という2点である。これらの課題を解決すること、そして令和4年1月22日(土)に開催される令和3年度「第25回視聴覚教育総合全国大会・第72回放送教育研究会全国大会」合同大会に向けた授業動画の制作を行うことを想定し、機材を確保して行った。

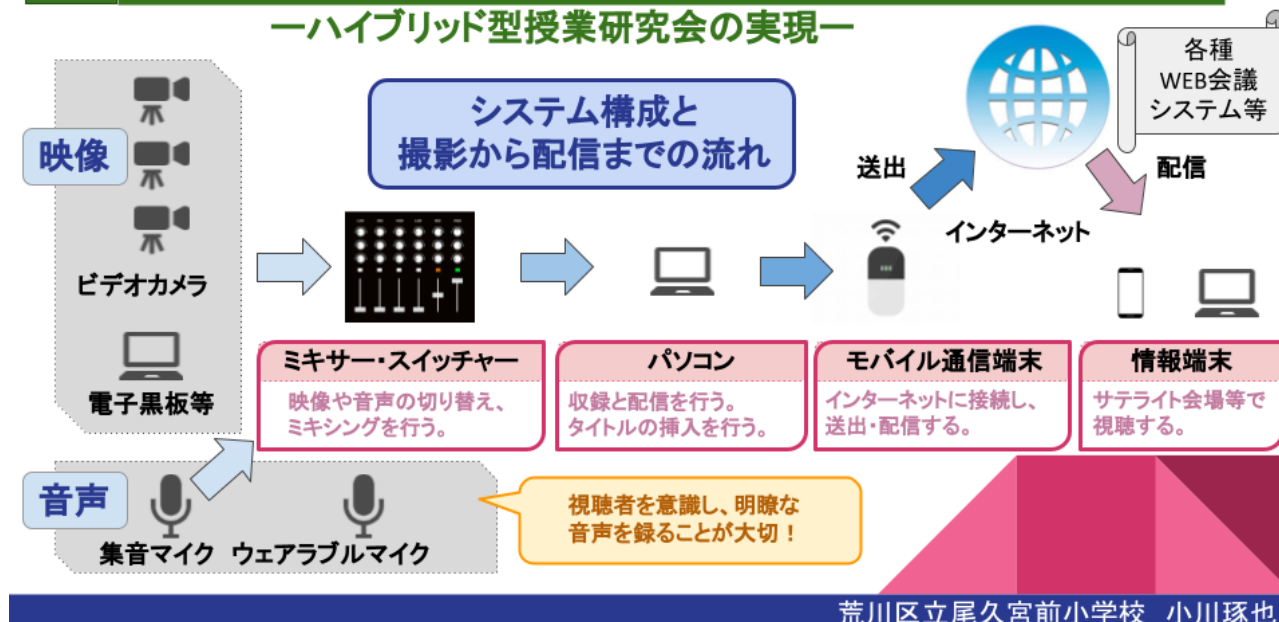
下図は配信システム構成と撮影から配信までの流れを示したものである。夏期研修会ではビデオカメラや三脚、マイクを使い、現場にいない参観者(視聴者)に分かりやすい映像と音声を伝えるための効果的な収録・配信方法について学びを深めた。上記①は、複数のカメラで同時に撮影した映像を切り替えながら配信することで表現の幅が広がり、参観者が必要とするであろう映像を選択して配信することができた。②は授業者・児童用のマイクを用意することで音声不明瞭になり、臨場感あふれるものになった。

昨今の技術の進歩は著しいため、今後も関係機関の動向を踏まえながら、ICTなどの視聴覚的手法の活用による学びの質の向上を目指していく。

授業動画

複数カメラを使用した収録・配信の実施

—ハイブリッド型授業研究会の実現—



(4) 特別研修会記録

研究推進副部長 幅 健司

年末恒例の箱根宿泊特別研修会は、昨年度に引き続き、オンライン開催となった。目前に迫った視聴覚教育総合全国大会に向けての準備・確認とGIGAスクール構想に基づく、一人一台のタブレット端末の実践例の報告、各自治体や学校での現状についての情報交換等、有意義な研修となった。

<開催日>令和3年12月25日(土)午後2時30分～4時10分

<会場>オンライン(ZOOM)

<参加者>現役会員9名

司会 武智副会長

記録 幅研究推進副部長

1 都小視の発表の内容について 原研究推進部長

○研究主題 第14次「新しい時代に生きる力を育む視聴覚」

～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～

○研究のねらい

各教科の特性を踏まえてICT等を活用した授業デザインを工夫する

○研究の内容・方法

ICT(視聴覚的手法)を活用した授業デザインとカリキュラム・マネジメントの工夫

○主体的で対話的で深い学び

個別最適な学び・協働的な学び

○授業デザイン 12のマトリクス(導入・展開・終末・校外 × 一斉・個別・協働)

○実践例

- ・井口輝人 荒川区立尾久宮前小学校 第1学年「算数 3つのかずのけいさん」
- ・松本雄企 八王子市立高倉小学校 第1学年「算数 ひきざん(1)」
- ・岡部創介 小平市立小平第三小学校 第2学年「プログラミング」
- ・蓑輪幸一 台東区立金曾木小学校 「プログラミング」3年間の流れ
- ・小川琢也 荒川区立尾久宮前小学校 複数カメラを使用した収録・配信の実施

○デジタルとアナログの融合

○協議

- ・ 発表当日は、技術の上でも最先端を行っているということにも触れながら実践と絡めて発表したい。
- ・ 授業デザインとカリキュラム・マネジメントの意識が今日でまた一段と高まった。改めて研究の取組について、どんな実践をしていくか、今後の授業でこの内容を踏まえ提案をしていく。
- ・ 明年の全国大会は東京大会となる。都小視としての発表の柱建てにしていく。
- ・ 東京音研修センターより、アンプラグド教材、低学年からの積み重ね、カリキュラム・マネジメントの重要性を強調してほしいとのこと。

2 実践事例

◆一人一台の端末と授業デザイン(2年生) 立川市立第九小学校 南枝弘之

1. chrome OS 手書き文字入力(思考と入力が連動するので、紙への下書きはしない)
2. Document でワークシート
3. Spreadsheet で共有

4. Form で相互評価

5. Classroom で添削 採点

6. 個別学習＋共有，個別学習の状況への対応

○成果

- ・何もせずに答えを待っている児童が、他児の書き込みを見ると、書き出す。
- ・作文は苦手でも負けず嫌いの児童が、Form ランキングで燃える。
- ・字をきれいに書けず、後で自分の字が読み直せない児童・・・
文を書くことに苦手意識 ＋ 下書き推敲がかなり困難
→ 手書き文字入力には嫌がらない。間違いは多いが、推敲はする。
- ・採点を見て、自分の現在の立ち位置が分かりやすく、すべきことが分かる。
→ 各児の採点が残りに、平均点も自動的に出るので、学期末に助かる。

○ 質疑の内容から

- ・ 児童へのコメントは、勤務時間外になることにはなるが、持続可能でやるならば、単元を精選して、ノートと併用しながら取り組むとよい。保護者はノートを見ながら学習状況を把握するが、タブレットばかりだとそれが見られない。自治体によって方針が異なるが、タブレットを持ち帰り、家で開いて保護者と確認する習慣が必要。また、保護者会などでタブレットでの取組を直接伝えるのも一つの手段である。
- ・ 活用については、学年や教員により差が出ている。誰か一人がやれるというところから、校内ですそ野を広げる取組が大切。教師が初めてでも、子供の方が経験を生かして進めていける場合もある。教員も実践してこそ、互いに見合う機会が生まれる。マシントラブルや通信障害など環境面での課題もあるが、一人一台の黎明期である。着実に進めていくことが大切である。
- ・ タブレットを活用した欠席連絡や連絡帳など、児童が勝手にやらないように保護者のアカウントも配布している自治体がある。逆に児童のアカウントで保護者が Classroom に入ってきて、授業の様子を見られるならば、学校公開がままならない昨今の状況の中で、それも一つの方法かと考えることもできる。また、子供たちの不適切な書き込みなどを保護者が見つけて家庭で指導するケースもあった。

◆小学校 1 年生から使う一人一台端末の活用 八王子市立高倉小学校 松本雄企

ここ数年の低学年担任経験を生かして考えたこと。何から始め、どこを目指せばいいのか。担任も子供も負担が減り、想像力と可能性が増していく。社会で生きていくために必要な力を身に付けさせたい。

○ 実践の目的

授業の中でどのように活用すれば効果的か
1 年生にどこまで使わせることができるか

○ 実践のねらい

アプリを計画的に授業に取り入れ、スモールステップで使っていくことで、1 年生の 1 学期からでも効果的に活用できるのではないか。

4 月～ 絵を描く 6 月～ 挿入 9 月～ 文字の手書き入力
10 月～ コピー 11 月～ 組み合わせる

○ 実践報告

- ・算数「ひきざん (1)」7 月 Google スライド

キャンバスで描いた絵を使って、「どちらがおおい」の場面を理解し、問題を作って解き合う。

- ・実践報告 算数「ふくしゅう」12月 ジャムボード

2学期に学習した内容を振り返り、問題を作って解き合う。

○ 評価について

◎児童が描いた絵を教材にしたことにより意欲の高まりが見られた。

◎デジタル素材の繰り返し利用による教材作成の時間短縮につながった。

▲担任も児童も操作に慣れる。

▲アプリの特性を理解する（計画的活用、オンライン授業、共通理解と校内体制）。

○ まとめ

「授業外」から「授業内」での活用を目指す。絵を描くのが有効である。とにかく慣れるように。授業内容と関連付けられたらよい。意図的計画が必要である。

発達段階、学習内容に合わせて、個別最適な学び、協働的な学び、どちらでもできる。できる子を育て学び合いの姿をつくり、子供たち同士で育っていくように。その分、リテラシーも大切になってくる。

○ 質疑の内容から

- ・ 一人一台タブレットについて、各自治体でも文部科学省の資料などを参考に、全学年を通した指導計画を作ろうとする動きもあるが、自治体によっても環境が違われ、教員の活用能力にも個人差がある。無理に足並みをそろえるというのも難しい。
- ・ 一番大切なのは、情報モラルである。道徳と絡めた研究も。全国大会でも情報モラルの大切さを訴えたい。月1回朝学習で情報モラルの時間を入れていくという考えもある。具体的な計画が必要になるが、SNS 東京ノート、道徳教材、NHK for School、YouTube、デジタルシチズンシップなどを織り交ぜながら考える。
- ・ 学習指導要領は、文字入力できればよいとしか書いていない。ソフトもいろいろある。ICTを一つのツールとして、紙でやりたい子はそれでもいい。何年生でどこまでというような計画については、なくてもよいと考える。教員が授業デザインする中で、この学習では、このようにICTを活用するとよいというものをやって見せる中で、子供たちは自然にスキルが磨かれていく。先ほどの例のように子供たち同士での高め合いもあるのだから、文字入力のところだけはしっかりやってあげればよい。そして、情報モラルをきちんと培っていきましょうということによりよいと考える。
- ・ 何年生のどの教科でこのように使いたいというのではなく、授業デザインにシフトしていけばよいと考える。授業デザインで示せば、子供が自分で、このように使ってみよう、最大公約数的に共通項として生かされてくる。教員間の差について、専科で使えば、どのクラスでも使うことになるので、専科教員も重要になる。
- ・ スキル面では、子供たちがあっという間に大人を抜いていこう。子供たちの周りには、ネットをはじめ、いいお手本がたくさんあり、子供たちの吸収力もある。だからこそ、授業デザインがキーワードとなる。授業デザインをもとにどういう授業を、どういう教育をしていくのか、今回、キーワードをしっかりと確認できた。

(5) 今年度の研究日程

研究主題(第14次)

新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究
 ~個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して~

令和3年度主要研究日程

月	全体研修会・授業	月例研究会・事業	都大会、映画フェア等
3		4(木) 月例研究会⑨ 会場:オンライン開催 ・令和2年度の反省 ・令和3年度の計画	
4	(令和3年度)	15(木) 月例研究会⑩ 会場:オンライン開催 ・令和3年度の組織・計画 ・理事会 ・第1回授業研究会	
5	13(木)全体研修会 I 会場:オンライン開催 ・実技研修会 ・第1回授業研究会に向けて	13(木) 月例研究会⑪ 会場:オンライン開催 ・理事会について ・全体研修会 I ・第1回授業研究会	顧問会 会長校及びオンライン ・令和2年度事業報告 ・令和3年度事業計画 ○映像研究会 日本視聴覚教育協会 ・映画フェア上映作品選定
6		3(木) 月例研究会① 会場:千代田・九段小 ・理事会 ・都大会指導案検討 ・夏期講座検討	
7	授業研究会① 日程…7/1(木) 会場…八王子市立高倉小学校 授業者…松本雄企先生 研究部総会	1(木) 月例研究会② 会場:オンライン開催 ・第1回授業研究会反省 ・都大会指導案検討 ・夏期講座	
8	20(金) 全体研修会 II オンライン開催	20(金)午前 第22回こども映画フェア 感染症対策のため中止 20(金) 午後 夏期講座 オンライン開催 ・全体研修会 II ・全国(都)大会準備	研究集録計画
9	授業研究会②(授業公開) 日程…9/13(月) 会場…荒川区立尾久宮前小学校 授業者…井口輝人先生	2(木) 月例研究会③ 会場:会長校 ・第2回授業研究会 ・全国(都)大会準備	○研究集録作成

月	全体研修会・授業	月例研究会・事業	都大会、映画フェア等
10	授業研究会②(協議会) 会場:オンライン開催	7(木) 月例研究会④ 会場:オンライン開催 ・全国(都)大会準備 ・箱根宿泊研修会	7(金) 理事会① 会長校及びオンライン ・令和2年度事業報告 ・令和3年度事業計画説明 ○九段小の授業参観、撮影
11		4(木) 月例研究会⑤ 会場:オンライン開催 ・全国(都)大会準備	○研究集録編集
12	25(土) 特別研修会 会場:オンライン開催 ・第14次研究主題検討	2(木) 月例研究会⑥ 会場:オンライン開催 ・全国(都)大会準備 ・特別研修会	○全国大会・都大会 準備 ○九段小の授業参観、撮影、編集
1		13(木) 月例研究会⑦ 会場:オンライン開催 ・全国(都)大会 ・特別研修会反省	22(土)全国大会・都大会 オンライン開催 ・研究発表 ・実践発表 ・千代田区立九段小の 発表支援
2		3(木) 月例研究会⑧ 会場:オンライン開催 ・全国(都)大会反省	第2回理事会 8(火) 理事会② 会長校及びオンライン ・令和3年度事業報告
3	3(木) 全体研修会Ⅲ 会場:オンライン開催 ・令和4年度の研究方針 ・映像研究会	3(木) 月例研究会⑨ 会場:オンライン開催 ・全体研究会Ⅲ ・令和3年度反省 ・令和4年度計画	3(木) 映像研究会 会場:オンライン開催 ・映画フェア上映作品選定
4	(令和4年度)	14(木) 月例研究会⑩ 会場:会長校	

○補足 上記以外にも、Web会議・Web ページ更新・会報発行等がある。

○都大会は全国大会と同時開催。公開授業は行わず、九段小と都小視研部員の授業を録画・編集し公開及び実践発表。

3. 東京おもしろマップ紹介 <http://teav.csides.com/tokyo/>

(1) 概要

<図-1：東京おもしろマップトップページ>



まずは、<http://teav.csides.com/tokyo/> にアクセスして、東京の区市町村名をクリックして見て頂きたい。各区市町村名から、その地域の特徴的な風景を見ることができる。

<図-2：檜原村のページ>



文京区



「遊び場」 柳町子供の遊び場

近くの都営アパートに住む子どもたちが集まります。



「交通」 地下鉄後楽園駅

地下鉄丸ノ内線の駅です。後ろに見えるのは東京ドームです。線路の下に道路があります。

都会の子が図-2（檜原村）を見れば、東京都の風景だとは思いきいであろう。檜原の子が図-3（文京区）を見れば、フェンスで囲まれた公園に違和感を感じるか、野球好きな子ならひと目で「東京ドームだ！ いいなあ」と叫ぶであろう。

東京おもしろマップの写真を見比べることで、同じ都内でも地域によって大きな違いがあることに興味、関心を持てるに違いない。写真ごとに記している簡単な説明文を読みながら、もっと詳しく調べてみたい地域を見つけたり、逆に自らの住む地域に目を向けたりする子が出てくると期待される。

都小視研では、この写真+説明文の集まりと、電子掲示板をセットにすることによって、実際に取材することのできない地域の子供達と交流しながら、互いの地域を紹介し合ったり、質問し合ったりすることができるよう工夫した。この仕組みは、自分たちが調べたことを写真と説明文で記録し、まとめたことを発表する活動にも応用できる。

（2）写真の更新計画

東京おもしろマップ作成当初、写真サイズは300×225ピクセルであったが、大型テレビの各教室への普及に伴い640×480ピクセルに拡大しようということになり、多摩地区、島嶼部の一部、及び中野区の写真が更新された。この更新作業には、東京おもしろマップ作成当初から年数がたち、現状とは違う資料が掲載されていることに対する改善策という意味合いもある。まだまだ未更新の市区町村が多いが、各担当者の努力により、順次更新されていくことが期待されている。

4. ジャンル別ひな形指導計画紹介

平成18年3月に、学習サイト「東京おもしろマップ」の活用を促すことを目的に、「東京おもしろマップひな形指導計画」作りが提案された。同年6月には、「東京おもしろマップ」に限らず、都小視研が近年積み重ねてきた実践をいくつかのジャンルに分類し、各ジャンルごとにひな形指導計画を作ることにした。同年10月には、ジャンルを以下の4つとすることに決まった。

*情報モラル，情報安全

*メディアリテラシー

*情報機器導入指導

*東京おもしろマップ

以降、指導計画の共通的书式，大まかな時数等を検討，決定し，各ジャンルごとに原案とする実践を選び，それらを同じ書式に当てはめる作業が行われた。

平成19年12月，以下の指導計画案が完成し，都小視研内でのチェックも終了した。

1) 情報モラル，情報安全

- ① メールのマナー・安全，情報流出… 5，6年学級活動，総合的な学習の時間
- ② 著作権… 5，6年総合的な学習の時間
- ③ 取材の仕方… 3，4年社会

2) メディアリテラシー

- ① ニュース作り… 5年国語
- ② CM作り・CM調べ… 6年総合的な学習の時間
- ③ 新聞作り… 4年国語
- ④ 新聞読み比べ… 6年総合的な学習の時間
- ⑤ 1枚の写真… 5年総合的な学習の時間

3) 情報機器導入指導

- ① デジカメ導入指導… 1年国語
- ② PCの基本操作… 3，4年総合的な学習の時間
- ③ Web検索… 6年理科

4) 東京おもしろマップ

- ① 学区の取材，投稿… 3年社会
- ② 学区の取材，投稿，他校と交流… 4年社会
- ③ 地域で誇れるものを取材，投稿，GTと交流… 5，6年総合的な学習の時間

これら指導計画案は，平成20年8月に都小視研ホームページで先行公開し，同10月の第2回授業研究会（都大会・全国大会）で先行配布した。その後，第3回授業研究会・研究報告会（平成21年2月6日）で正式配布した。

おわりに

東京都小学校視聴覚教育（情報教育・ICT教育）研究会
研究推進部副部長 幅 健司
（練馬区立立野小学校長）

長引くコロナ禍の中で、GIGAスクール構想も前倒しで実施され、「まずはタブレットを使ってみよう」と、各学校での活用の実践も大きく広がったといえます。しかしながら、各自治体によって環境整備の状況は異なり、教員による活用にも温度差が生じていること、さらには情報モラルの重要性などが指摘されています。こうした中であって、本研究会は、部員が先進的な取組に挑戦しながら、自治体を超えてさまざまな情報交換を行い、相互に学校や自治体に還元していこうと研究を進めてきました。コロナ禍の中で制限はされたものの、今年度も2回の授業研究会を実施し、オンラインがメインとなりましたが、月例会や研修会も重ねてきました。特に1人1台端末の黎明期とあって、活用の実践については、毎回話題が尽きないほど充実した交流となりました。さらに、1月に開催された合同大会において、本研究会の発表と実践報告ができたことは大きな成果であると言えます。

新学習指導要領において「情報活用能力」が、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、問題発見・問題解決能力と同等に位置づけられたことは、私たち視聴覚（情報）教育に携わるものとしては、大変喜ばしい限りです。今後、インターネット環境や教師用タブレットの整備、ソフトウェア・コンテンツの充実などが進んでいく中で、一層本研究会の使命は大きくなっていくものと考えています。これまでの研究の歴史の中で培ってきたノウハウを生かしながら、子どもたちの個別最適な学びと協働的な学びを追究すべく、「授業デザイン」と「カリキュラム・マネジメント」をキーワードとして、さらに研究を深めてまいります。

ぜひ、本研究に対しましてのご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年度の研究を進めるにあたり、ご指導いただきました講師の先生方、ご協力いただきました学校の校長先生方、関係諸機関の皆様方に心より御礼申し上げます。

■令和3年度都小視研 役員・事務局員・研究推進委員 一覧

- ◆ 顧問 伴 憲三郎 小阪 順二 大内 勝 古川 和彦
 (歴代順) 丸山 昌哉 木村 和夫
 ◆ 参与 滝原 美智子 小林 昭 柿沼 昭 関口 文男
 (歴代順) 村山 寿 近藤 忠美 広澤 フサ子 矢島 富士雄
 松本 浩子 山東 正昭 石塚 勝之 湯地 和夫
 武藤 育夫 吉田 一夫 米澤 利正 古川 恵子
 原田 哲 藤澤 勇夫 細川 猛彦 内田 忠康
 下城 英和
 ◆ 参事 須藤 太郎

■会長・副会長・事務局長・研推委員長の仕事分担

会 長	古谷 尚律	会 長	○総括
副 会 長	川島 隆宏	会長代行	○都小視全体運営 ○学視連携 ○全国大会 ○関プロ大会 ○各種功労推薦
副 会 長 事務局長	武智 直貴	事務局担当	○事務局運営(月例会・理事会顧問会・都大会事務局) ○都区後援依頼 ○会計・監査指導 ○印刷関係渉外
研究研推 部 長	原 香織	研究推進部 担 当	○授業研究会運営(定例授業研究会・都大会授業・全国大会での授業及び提案) ○研究主題・研究構想

◆役員・事務局

◆研究推進部

	氏 名	地区	校名		氏 名	地区	校名		氏 名	地区	校名
会 長	古谷 尚律	台東	金竜	部 長	原 香織	豊島	椎名町	研究部員	神川 達也	中野	中野本郷
副 会 長	川島 隆宏	調布	第一	副 部 長	幅 健司	練馬	立野	〃	小川 大二	豊島	椎名町
事務局長	武智 直貴	中野	平和の森	〃	江口 千穂	北	王子第二	〃	宮内 和浩	豊島	池袋本町
庶務部長	高瀬 雄二	江戸川	松本	〃	金高 俊哉	大田	中富	〃	長坂 知哉	豊島	池袋
庶務副部長	飯島 嘉正	江戸川	南小岩第二	〃	井上 光広	大田	矢口	〃	波多野 守	荒川	尾久
〃	外山 俊吾	豊島	高南	〃	曾木 誠	杉並	杉並第九	〃	井口 輝人	荒川	尾久宮前
広報部長	南枝 弘之	立川	第九	〃	戸邊 豊	台東	浅草	〃	小川 琢也	荒川	尾久宮前
会報部長	山口 朗太	江東	深川	主 任	池田 昌弘	板橋	桜川	〃	松岡 祐樹	荒川	第四峡田
会計部長	赤嶺 富美子	練馬	大泉東	〃	大竹 守	江戸川	下鎌田東	〃	中村 公典	板橋	北前野
会計副部長	黒木 聡子	国分寺	第九	〃	鶴川 孝之	板橋	蓮根	〃	鎌田 睦世	練馬	高松
研修部長	曾木 誠	杉並	杉並第九	〃	鈴木 康晴	江戸川	東小松川	〃	西野 俊章	足立	中川
調査部長	秋田 克己	日野	旭が丘	〃	簗輪 幸一	台東	金曾木	〃	平澤 望	足立	北鹿浜
会計監査	高木 圭一	大田	清水窪	研究部員	中岡 誠也	千代田	九段	〃	重信 結基	足立	青井
〃	藤澤 隆恵	台東	松葉	〃	岩瀬 悠太	千代田	九段	〃	佐々木 幸人	足立	梅島
				〃	加藤 達也	千代田	和泉	〃	田村 近茂	足立	花保
				〃	黒島 健太	中央	京橋築地	〃	宇賀神 達哉	足立	舎人
				〃	嶋田 歩実	文京	湯島	〃	三浦 悠嗣	足立	本木
				〃	玉置連 太郎	台東	富士	〃	松本 雄企	八王子	高倉
				〃	篠原 雄	墨田	梅若	〃	畠 帆郎	三鷹	中原
				〃	松林 慶樹	江東	東川	〃	武井 茂樹	調布	第一
				〃	俵 宏樹	江東	香取	〃	鶴見 陽子	調布	第二
				〃	大川原 充美	江東	元加賀	〃	岡部 創介	小平	小平第三
				〃	亀山 俊	江東	東砂	〃	北原 康弘	国分寺	第三
				〃	廣野 良明	江東	第五大島	〃	宮崎 友和	国分寺	第四
				〃	景山 孝一	江東	毛利	〃	大井 恒太	国分寺	第六
				〃	高橋 優子	品川	延山	〃	山崎 怜	東大和	第八
				〃	岸田 淳生	品川	大井第一	〃	吉田 隆臣	東大和	神宝
				〃	吉野 修平	世田谷	代沢	〃	宮本 知瑛	稲城	稲城第四
				〃	風間 裕子	杉並	井荻	〃	鹿目 裕一	西東京	東伏見